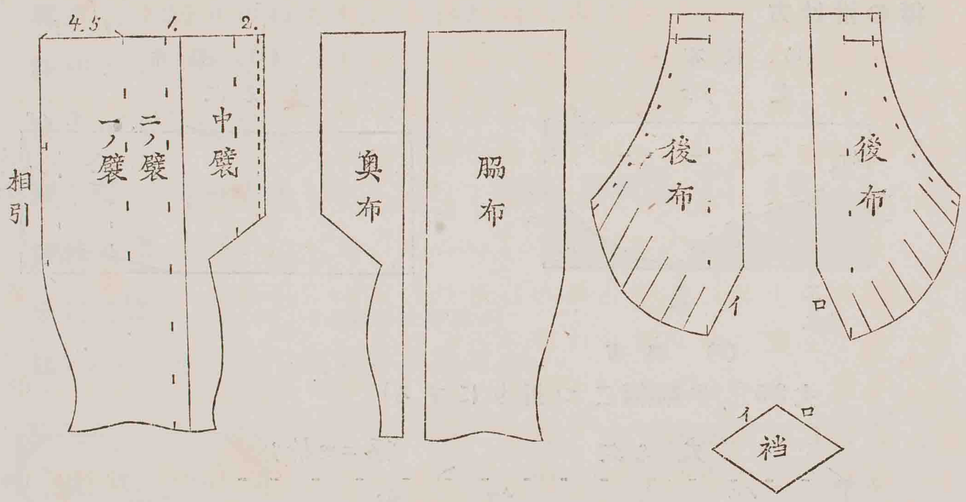
縫ひ合せ方



縫ひ方

(い)半紙を,幅4－5に切り,揉みて皺を伸し,投げの處へ糊で貼り附

け投げを2.5寸三つ折り絎けにする。

(ろ)後布の斜の處に,襠を縫ひ附け,折りは後布の方へ返す。

(は)後懷を縫ひ合せ,折りは背と同じに返す。

(に)脇布と奥布とを縫ひ合せ,折りは奥布の方へ返し,伏せ縫ひをなし,前懷を縫ひ合せ,折りは前に折り返す。

(ほ)襠の一方と,左奥布の斜の處とを縫ひ合せ,右は縫はずして,襠の大きさだけ明け置き,細く三つ折りに絎けて,閂止めをなす。

(へ)脚袢の上部にて,襠を奥布に附けた處から,下部を1寸脇布と奥布とを縫ひ合せ,折りは前の方に返す。

(と)今縫ひ合せたる下を,兩脇別々に三つ折りになして,二針か三針目に針を返し,糸を少々引きて縫ふ。

(ち)裾口を脚袢の時の樣に縫ふ(三つ折りにして,二針か三針目に,返し針にして,少々糸を引きて縫ふ)。

(り)相引を縫ひ合せる(此の時後布に1寸の襞を七つ取りて置く)。

(ぬ)後襞及び前襞を取る。

(る)紐を普通袴の様に絎ける。

(を)紐を附け,後腰を立て,前紐を附けること,普通袴と同じである。

(わ)脚袢の紐を絎ける。

(か)脚袢の紐の附け方は裾口から1·8寸上つた處へ,幅2寸出來上り丈18寸の紐を,絎け目は下に向け,紐丈の中央と脚袢の中央とを合せ,凡2寸位の間絎け附け,其の上を片千鳥に縫ひ附ける。

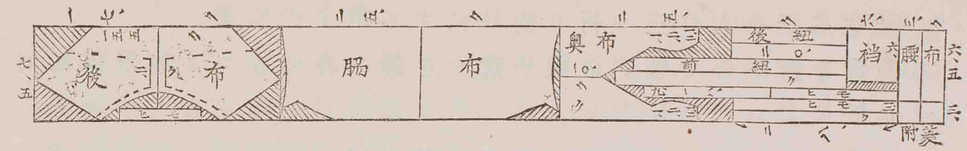
(よ)下部の紐から,更に五寸上つて幅·4寸丈28寸の紐を,丈の中央と袴幅(脚袢)の中央とを合せて,3寸位絎け附け,其上を片千鳥に縫ひ附ける。

(た)相引止りと,脚袢の上部とに閂止めをする。

(れ)各紐を疊み,普通袴の様に,紙で封じて置く。

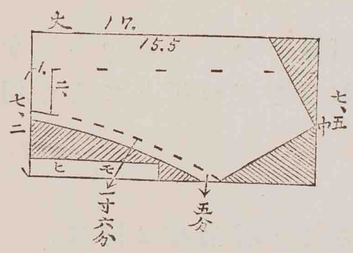
シヤモ裁附袴の,普通裁附袴と異なる所。

幅9·5寸の布を以て,シヤモ裁附袴の裁ち方。



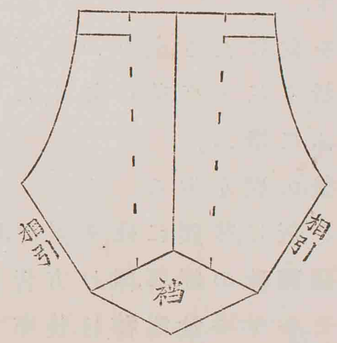
標附け方

(1) 後布



縫ひ合せ方

後布



シヤモ裁附袴縫ひ方

(い)投げに紙を入れ,三つ折り絎けにする。

(ろ)後懷を縫ひ合せ,後斜の處と襠とを縫ひ合せること,裁附袴に同じ。

(は)前懷を縫ひ襠を縫ひ合せること,前に同じ。

(に)後布の投の下の,斜の處と,脇布とを縫ひ合せ,折りは脇布の方に返す。

(ほ)襠を附けたる止りから,下を1寸の間縫ひ合せ,それから下を三つ折りにして,前の如くにして縫ひ,裾口を三つ折りにして,同じやふに縫ふ。

(へ)前後の襞を取る。

(と)紐を絎け,後腰に紐を附け,腰を立てること,普通袴と同様。

(ち)前紐脚袢の紐等,附け方皆前に同じ。

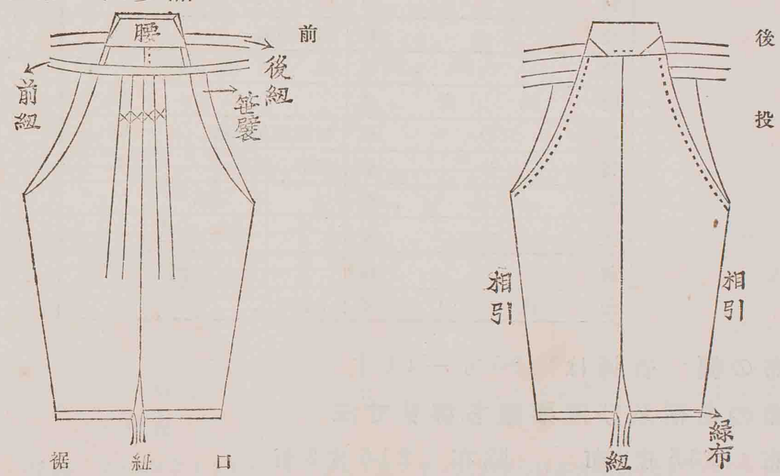
備考　シヤモ裁附袴は,後布丈17寸にするので,總尺が2寸短かくなる,其の他は同じである。

モツペイ袴

重に寒國で,一般の人が用ひるものである。

地質　男は縞,女は盲縞を用ひたが,今は男女共に縞を用ひる。

各部名稱　圖參照



仕立て上げ寸法

（寸單位）

名稱	寸法		
紐下	一つばい	20.	
相引		10.	
後幅	裾口の處	5.	
腰幅	前 8.	後 6.5	
腰紙高さ		2.2	
一の襞	相引止りの處	4.8	
寄せ襞	紐附の處	8.	
笹襞	1.		
後紐	幅	.8	
	丈	18.—20.	
前紐	幅	.8	
	丈	80.—95.	
前後の差	上部で	1.5—2.	

用布の幅　普通は　9.5寸—11寸

各布の名稱及び所要裁ち切り寸法

後布　23.5寸2布　　脇布　21.5寸2布

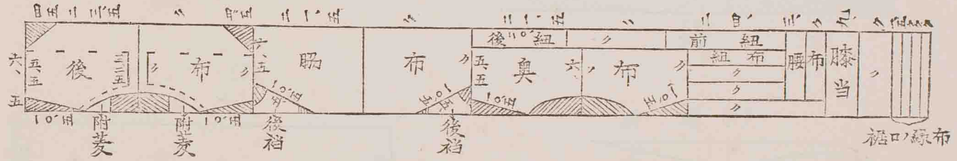
奥布　21.5寸2布　　後襠　脇布の裁ち落し布を用ふ

膝當　9.寸2布

紐布{後 18寸—20寸{後 2寸 / 前 2寸
　　{前 80寸—95寸{前 2寸

裾口の縁布　1.5を4布こり接ぎ合せて用ひる。

幅9.5寸の布を以て男モツペイ袴の裁ち方。



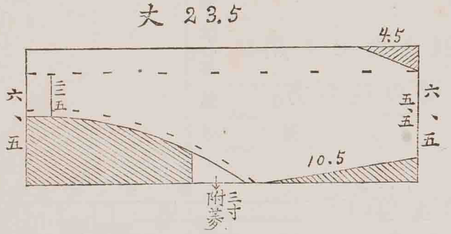
積り方公式　2後布丈＋4脇布丈奥布丈＋紐布丈＋2膝當＋2腰布7＋4裾口布＝總尺

同　算式　23,5×2＋21,5×4＋24,＋(9,×2＋(3,×2＋(1,5×4)＝163

標の附け方

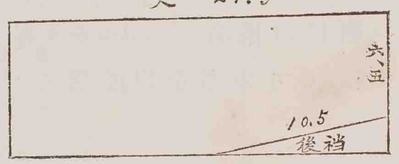
(1) 後　布

丈 23.5



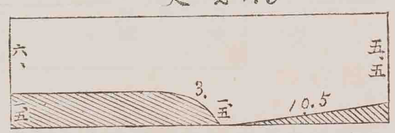
(2) 脇　布

丈 21.5

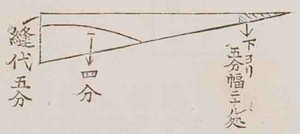


(3) 〃

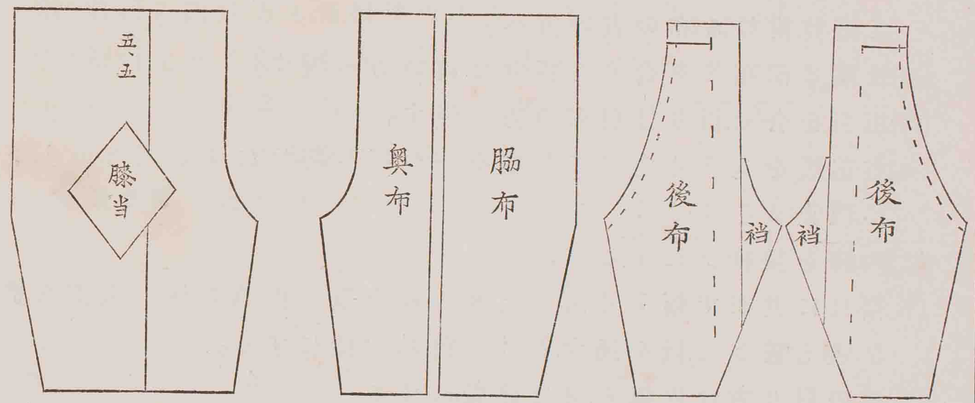
丈 21.5



(4) 後　襠



縫ひ合せ方



縫ひ方

(い)投に半紙を當て,絎けること,皆裁附袴に同じ。

(ろ)後布と後襠を縫ひ附け,折りは襠の方に返し,伏せ縫ひをする。

(は)脇布と奥布とを合せて縫ひ,折りは奥布の方へ返して,中央の處

で上部から5寸－5.5寸下つた處へ,膝當を當て,角を正しく折りて絎け附ける(布の表の方へ)。

(に)後襠と前布とを合せて,折りは前の方へ返す。

(ほ)相引を合せ,折りは前布の方へ返す。

(へ)右前懐を2.5寸明けて,其處を三つ折り絎けにする(明きの上下に,閂止めをする)。

(と)内胯を袋縫ひにする。

(ち)裾口に共布で,幅7寸出來上りの縁を取り,内襠の處へ,穴即ち縫ひ殘し置きて,紐を通す,着けて後結ぶ樣にする。

(り)襞の取り方は片返し,又は諸襞にする。

(ぬ)前は中襞2.5寸二の襞は,中襞と脇襞との中央となし,脇襞は相引止りで,4.5寸－5寸として,各寄せ襞幅は上部8寸,裾口で消える樣に取る。

(る)前笹襞を,幅1寸にして,普通袴の樣に取る。

(を後丈は,前丈より2寸長くして,普通男袴の樣に立てる。

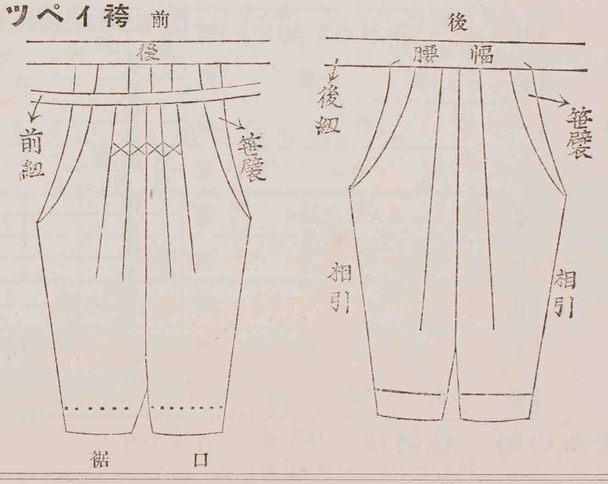
(わ)前紐の附け方も,皆同樣である。

(か)相引止りと,裾口明き止りに,閂止めをする。

(よ)前後の紐を疊み,封じ置くこと,皆普通袴の樣にする。

女モツペイ袴

各部名稱　圖參照



仕立て上げ寸法

（寸單位）

名稱	寸法	
紐下	23.5 着する人に依る	
相引	後の上部から 12. 下りたる處から下	
後幅	相引の處	6.
	裾口	5.5
前後腰幅	後	7.
	前	7.5
一の襞	後	4.5
	前	4.5
寄せ襞	後紐附	1.
	前同	.8
笹襞	後	1.8
	前	1.1
前紐	幅	.8
	丈	80.—95.
後紐	幅	1.5
	丈	45.—50.
前後の差	1.5—2.	
後腰紙（厚紙）	幅	3.3
	丈	8.

用布の幅　普通は　9.5寸　11.寸

各布の名稱及び所要の裁ち切り寸法

後布　27.5寸2布　　脇布　　26寸2布

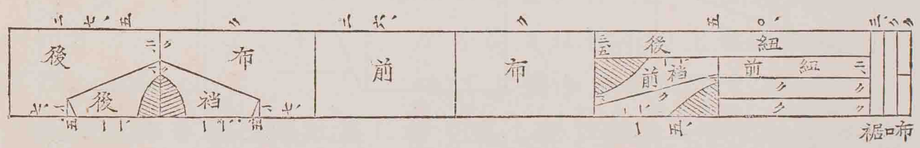
後襠　後布から裁ち落したるもの2布

前襠　15寸2布(裁ち合せる)

前紐 {幅 2寸 丈 80寸 —95.—一本　裾口布 {幅 3寸3布 丈 1布半(接ぎ合せる)

後紐 {幅 3.5寸 丈 40寸　一本

幅9.5寸の布を以て女モツペイ袴の裁ち方。



積り方公式　2後布丈＋2前布丈＋紐布丈＋3裾口布＝總尺

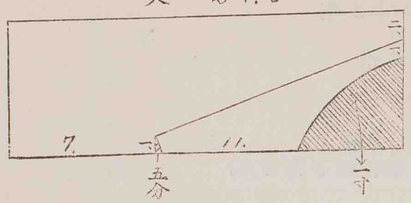
同　算式　27,5×2＋26×2＋50,＋9,＝166,

標附け方

縫ひ合せ方

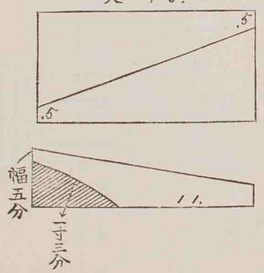
(1) 後布と後襠

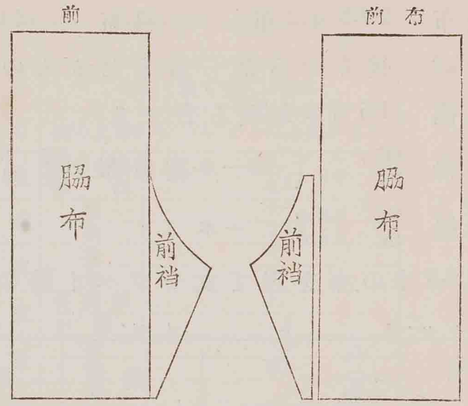
丈 27.5

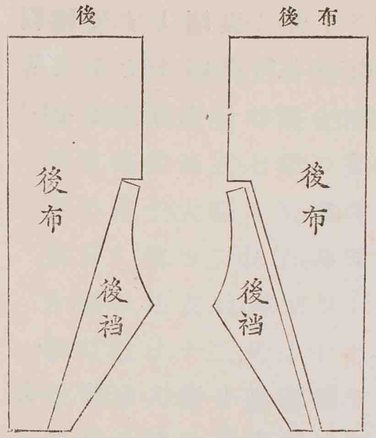


(2) 前襠

丈 15.







縫ひ方

(い)後布と後襠とを合せて,折りは後襠の方へ返す。

(ろ)後襠と前襠とを合せて,折りは前襠の方へ返し,伏せ縫ひをする。

(は)前布と前襠とを合せ,折りは前襠の方へ返す。

(に)相引を縫ひ合せ,折りは前に返し置く(相引の高さは,後布の上部から,10寸取り置きて,其殘りを相引とする)。

(ほ)裾口布を縫ひ附け,裏に折り返し,裾口布を一つばいにして,縫ひ代の端を折りて,絎け附ける。

(へ)内胯を袋縫ひにする後布の胯上は,眞直に縫ひて,縫ひ目を割り,兩方に絎け附け,下の裁ち目は,其のまゝになし置く)。

(と)襞の取り方,後懐1·5寸中襞2寸,笹襞幅1·8寸寄せ襞幅1寸,後腰幅7·5寸前懐1·5寸(二)の襞は中襞の折り山から,笹襞幅までを三等分して,折りを附け,上部の寄せ襞幅·8寸づゝになして,前笹襞を1·1寸にして,前腰幅を8寸にする。

(ち)前後の紐絎け方は,普通女袴と同じにする。

(り)前後の腰(紐附方)は,皆普通袴と同様にする。

(ぬ)前後の紐の疊み方,封じ方等も同様。

袈裟及び法衣

袈裟と法衣とは,印度から傳はつたもので,袈裟は小切れを接ぎ合せたのが原である,袈裟と法衣との地質は,木綿麻等であつたのが,中古から絹布類で仕立てる樣になつたのである,初めは夏冬共に同地質を用ひたのが,現今では,夏冬異つた地質を用ひる樣になつたのである,用布の地質冬は精好·羽二重·縮緬·紋羽二重·木綿等夏は絽·紗·麻等,色は緋·紫·鶸色·黑等。

袈裟の種類

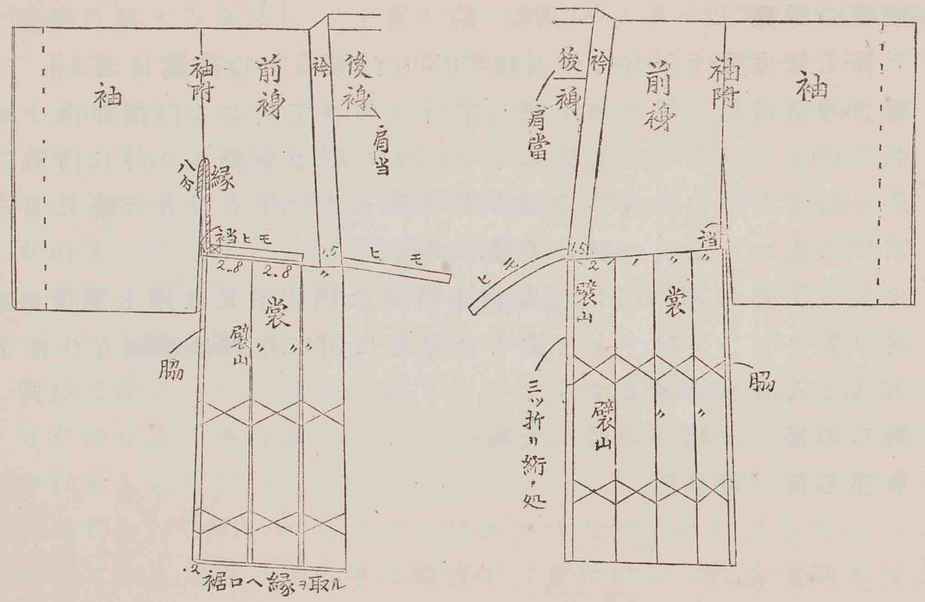
五條·七條·九條·十三條·二十五條等,略したものを輪袈裟と云ふ。

着方(通常禮服の場合)浄土宗　宗旨に依つて異なる,白襦袢·白小袖·刺貫袴·紫法衣·七條の袈裟,水干と稱する帽子を被ふり,外に白羽二重の帽子(大幅で裝束の片袖)を取つたもので,仕立て方は袷にする。宗旨に依つて,法衣の襞の差違がある。

片襞の法衣は,禪宗又は法華宗,兩襞のは,門徒宗又は浄土宗である。襞の數は,十二又は十七で,裳布は竪布に用ひ,布數は常幅なれば十布,又は八布を普通とする。

用布の幅　並幅　中幅　大幅

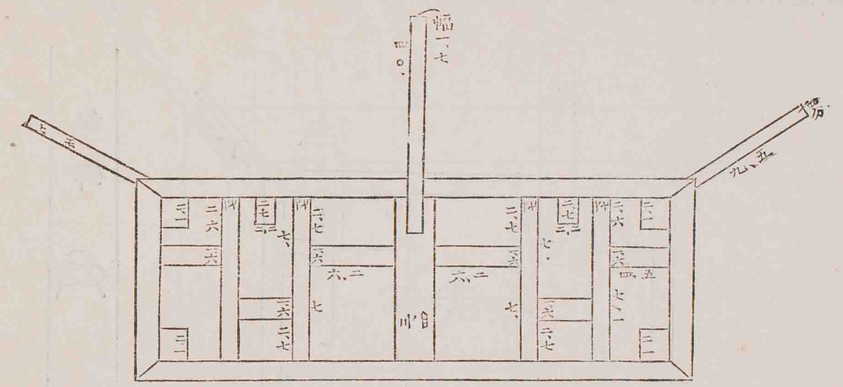
各部名稱　圖參照

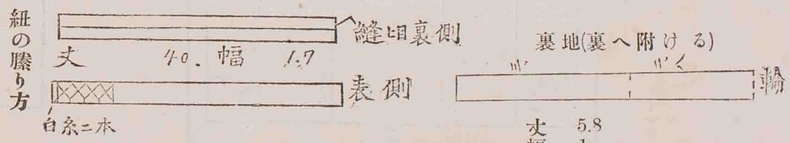


用布の地質表袈裟金襴純子錦羽二重麻紗等

裏甲斐絹　羽二重　綸子等

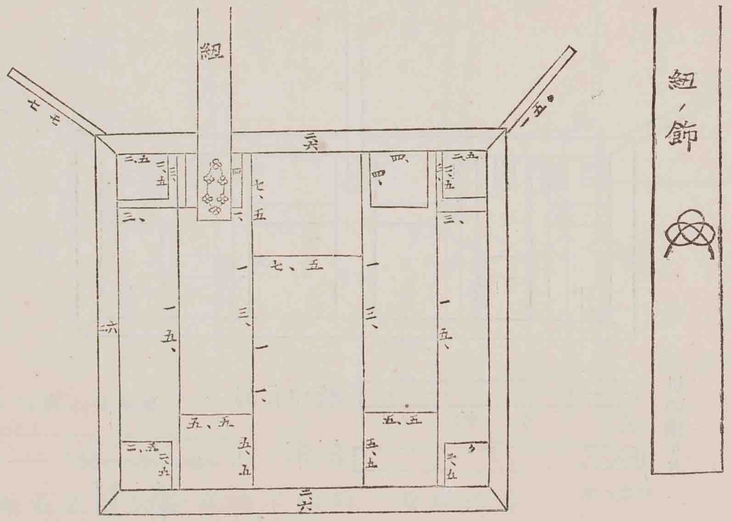
各部名稱圖參照　　淨土宗五條の袈裟



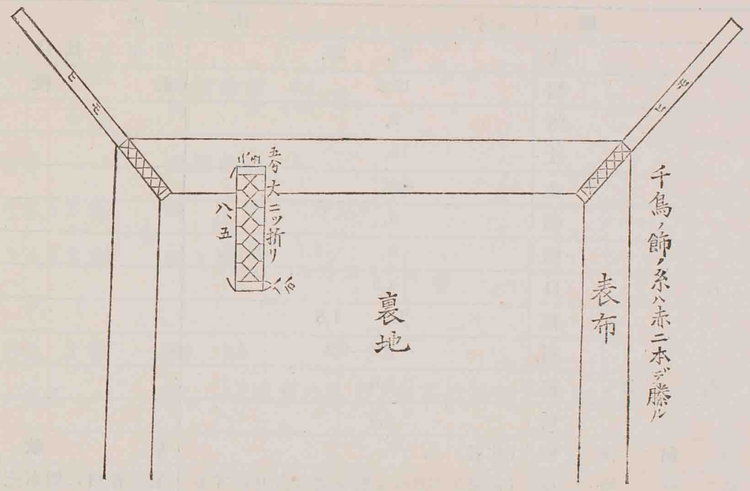


袈裟

日蓮宗五條の袈裟各部名稱　圖參照



方信の袋組飾の裏



仕立て上げ寸法

（寸單位）

名稱	寸法	備考
袖丈	20, 22,	別布を袖口に附ける
袖幅	17,5	前後共
袖附	9,	
後丈	13,	
前丈	14,	
後幅	8,	
前幅	6,	
身八つ口	4,5	
衿幅	1.5 1.8	
衿肩	2,2—2,3	
腰布幅後	3,5	
同前	4,5	
裳の前後襞	（片襞）2,	襞數 17
裳の前後襞	（兩襞）2,8づゝ襞を突き合せにする	裳の裾口に別布三つ割りのものを附ける
襠布	1,四角づゝにする	

各部の名稱及び裁ち切り寸法

裳布 {幅 20, 丈 20,乃至25,4布又は5布}

袖丈 20,54布

袖幅 1幅

後腰布 幅 5, 同 丈 18 {1布}

襠幅 10

前腰布 幅 5, 同 丈 7,乃至8 {2布}

後身丈13,52布 {4布}

前身丈14,52布

假り紐 {幅 1,5 丈 8,乃至10, {4布}

衿幅 5,

同丈 35, 1布 {幅 1,5 丈 15四角のもの2布芯は厚紙を入れる}

衿肩明 2,5

仕立て上げ寸法

浄土宗五條の袈裟			日蓮宗五條の袈裟		
寸法	寸法	布數	寸法	寸法	布數
幅 2,1	丈 2,1	4	幅 4,	丈 4,	2
同 4,5	同 2,6	2	同 5,5	同 5,5	2
同 同	同 1,6	2	同 2,5	同 2,5	4
同 同	同 7,1	2	同 3,	同 15,5	2
同 同	同 7,	2	同 5,5	同 13,	2
同 同	同 1,6	2	同 7,5	同 11,5	1
同 同	同 2,7	2	同 7,5	同 7,5	1
同 6,2	同 7,	2	同 3,	同 3,	2
同 同	同 2,7	2	同 2,6	同 29,7	2
同 同	同 1,6	2	同 同	同 23,7	2
同 2,2	同 2,7	2	同 同	同 36,	1
同 3,4	同 11,3	1	同 同	同 15,	1
同 1,7	同 11,3	4	同 ,4	同 15,	2
同 1,7	同 40,0	1	同	同	
同 ,4	同 9,5	2	同	同	
同 2,6	同 45,8	2	同	同	
同 同	同 16,5	2	同	同	

各布の名稱及び裁ち切り寸法

浄土宗　　日蓮宗

各仕立て上げ寸法へ縫ひ代を(裏地は表を縫ひ合せた寸法へ合せて加へて裁つのである。各部へ縫ひ代を加へて裁つのである)

紐布{幅 1,2 丈 10 2布　裏布で{幅 1,5 丈 6,5 1布　縁布{幅 6 丈 301 2布

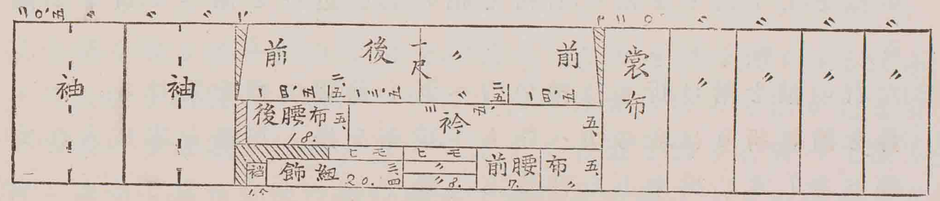
紐布{幅 4, 丈 40, 1布　同布{幅 6, 丈 25, 2布

紐布{幅 6, 丈 46, 1布

縁布{幅 6, 丈 47, 2布　同 {幅 1,2 丈 16, 2布

同 {幅 6, 丈 17,5 2布　同 {幅 6, 丈 16, 1布

幅20寸の布を以て,兩襲法衣の裁ち方。



積り方公式　4袖丈＋4裾丈＋2前下り＋5裳布丈＝總尺

同　　算式　20,5×4＋13,5×4＋1×2＋20×5＝238

縫ひ方

(い)袖口布と袖とを縫ひ合せ,折りは表の方へ返し,袖下を袋縫ひにする。

(ろ)袖口布の奥の端を,2寸裏へ折り返して,袖口を正しくして,袖の表へ小針を出して絡ける。

(は)袖幅標をして,袖附けを殘して,八つ口を耳絡けをする。

(に)裾を出し,背縫ひをなし,折りは普通の着物の樣に返し,後幅と肩幅の標をして折りを附け,前裾も脇の縫ひ込みを揃へて,折りを附ける。

(ほ)左右の袖を附け,折りは袖の方へ返し,前幅の標を附ける。

(へ)衿を附け,折りは衿の方へ返して,襠布を出し,厚紙を芯に入れ,丈と幅とを,1寸に出來上る樣にして置く。

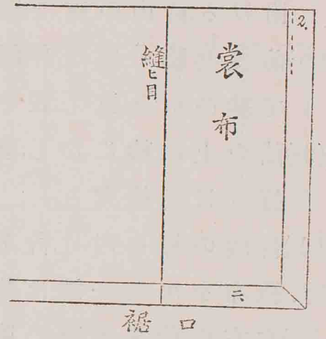
(と)裳布を出し,五枚共に縫ひ合せ,折りは裾口を右に持つて,手前に返し,裾口を圖の樣にする。

(ち)裾口を裏へ2,5寸折り返して,裁ち目を折り共糸で小針に,裏側に二針づゝ,小針を出して,耳絡けの樣にする。

(り)裾口の兩角は,着物の褄先の樣に,斜に竪横共に突き合せて,額縁の樣にする。

(ぬ)裳の裾口を細く,縁の樣に裾口の折り山を,表の方へ返して,細かに羽二重糸で,纏つて,縁にする。

兩襞の裳布



(る)裳の襞を取る,始め襞の2,5寸を,12倍して,これを襞全體から減じ,殘りの寸法を,兩襞の4倍即ち48にて割れば,襞の懷の寸法が定まるから,其の寸法通りに,襞を取つて,正しく各襞を,假りに押へて置く。

(を)裾と腰布で,裳布を挾み,脇の處まで縫ひ,此の處で1寸の襠布と裳

と縫ひ合せ,襠の左右の端は,前後腰布の間に入れ,襠の止りから先は,裙と腰布で,裳を挾みて縫ひ,又脇に襠を入れて縫ひ,前裙を縫ひ附ける,衿山の處で,襞の端と合ふ樣に附ける。

(わ)前後共脇の處は,身幅と腰幅とを揃へて,襠も揃へて,挾み,裏表の間で縫ひ,引き返し,表を出して,腰布幅を定め,裙に綴け附ける。

(か)襠の上は輪になし,裏で綴け附け,裙の八つ口は,腰布から上は,二つ折りにて綴ぢる。

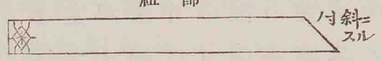
(よ)衿幅の標を附け,衿を綴ける。

(た)紐布を出し,一端は裁ち目のまゝにして,一端は折つて綴ける。

(れ)左右の衿先の,裏に附ける糸は,二本糸で綴ぢ附ける。

(そ)圖の樣に,右脇の裙へ,飾り紐を共布で拵へて附ける。

紐飾



丈 19.
幅 1.5

滕り糸は,白絹糸二本にして滕る。

(つ)袖附けの止りから,8寸下つた處から,細く白羽二重で,縁を前裙の脇明けの處へ附ける。

幅20寸の布を以て,片襞法衣の裁ち方。

積り方公式　4袖丈＋4裙丈＋2前下り＋5裳布丈＝總尺

同　　算式　20,5×4＋13,5×4＋1,×2＋25,×5＝263

縫ひ方

兩襞の法衣と同樣の處は略する,只異なる處のみを記す。

(い)裳布を5枚共縫ひ合せ,折りは裾口を右に持ちて,手前に返し,別布を裾口へ縫ひ附け,折りは裏の方へ返し,表を裏へ.1寸ふかせて躾けを掛け,丈の兩端を,裾口のあるだけは,表と縫ひ合せ,上を三つ折

りにして紮け,裾口裏の上を·2寸程折り返し,裳布の表へ小針を出して,針目·3寸位に紮け附ける。

(ろ)裳の襞を取る,上前先は,幅5寸殘して,殘りの内から襞幅2寸づゝを,襞數の17倍取り,其の殘りを,片襞の數2倍即ち34で割れば一つの襞の深さ(懷の深さを定め)て,襞を取る,襞を假りに躾け糸で押へて置く。

袈裟の縫ひ方 (日蓮宗五條) 縫ひ方·返し縫ひ。

(い)各部の縫ひ合せ方は,圖の樣に接ぎ,各部を割つて,四角の處と,上部になる處とへ,方4寸の布,及び方2,5寸の布を,上から正しく紮け附ける。

(ろ)緣布を,中表に合せて縫ひ附け,縫ひ目は割つて,角の處は斜に接ぎ合せて,額緣の樣に,表と裏とを拵へて,中を縫ひ疊みて(厚き地質の時は,切り取る)裏布を合せて,縫ひ代へ裏布の處だけ綴ぢ附けて,其上に裏緣を當てゝ,細かに紮け附ける。

(は)紫の丸打ち紐を結びて,表地の飾り紐を紮け,其上に綴ぢ附ける。

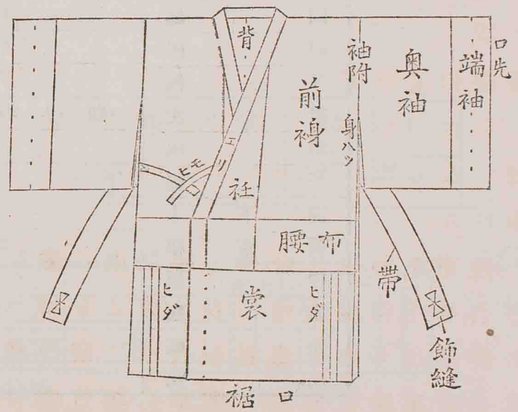
(に)紐を圖の樣に,寸法を定めて,袈裟の上に載せて紮け附ける,幅2,6丈15,出來上りの紐を紮けて,丈を二つ折りにして,裏の方に當て,圖の樣に赤糸二本にして,千鳥に縢る。

(ほ)幅,4寸丈15,寸の紐を,二本紮け,上部の左右の裏側斜の處へ當てゝ,圖の樣に千鳥にて,縢つて仕上げをする。

備考 淨土宗の袈裟の縫ひ方も,同樣であるから略す。

素絹

各部名稱 圖參照



用布の幅　並幅　中幅　大幅

用布の地質　紋羽二重　羽二重綾綸子　等

仕立て上げ寸法

（寸單位）

名稱	寸法
袖丈	18.—20.
同幅	13.
同附	8.—8.5
後幅	7.—7.5
褄丈	後 19.—20.　前 20.—21.
前幅	6.7.
衽幅	下 4
同下り	3.5
腰布幅	28.—3.
衿幅	1.4
帶幅	2.　丈 50.
紐幅	.4.5
同丈	8.

各布の名稱及び裁ち切り寸法

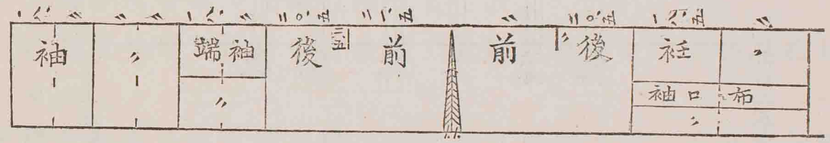
袖丈　18.　4布　袖幅　1布半　裾口布並幅四つ割り丈18　4布

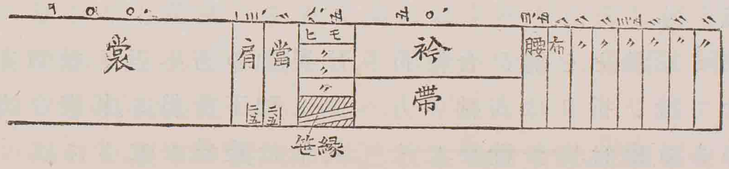
後褄丈 20.5　2布
前褄丈 21.5　2布　} 4布腰布並幅3.5　8布

衽 {丈 18.5　2布　帶半幅 50.　1布
　 {半幅

衿半幅丈50.1布　紐幅1.5丈8.5 4布

幅9.5寸の布を以て,素絹の裁ち方。



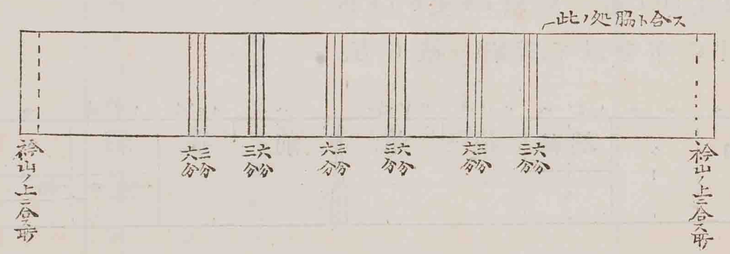


積り方公式　6袖丈＋4裾丈＋2衽丈＋2前下り＋裳布＋衿布の紐布＋2肩當＋8腰布＝總尺18×6＋205×4＋18,5×2＋1×2＋100＋50＋8,5＋13×2＋35×8＝441,5

同　算式

標附け方

裳布襞の定め方



縫ひ方

(い)奥袖と端袖とを縫ひ合せ,折りは奥袖の方へ返し,袖口布を出し,合せて縫ひ,折りは表袖の方へ返し,袖下を縫ふ,其縫ひ方は,袖口布のある處は,四つ縫ひにして,其他は袋縫ひにする。

(ろ)袖口布の端を,裄け代だけ折つて,表へ小針を出して裄ける。

(は)裾の脊を縫ひ,肩當てを當て,背の縫ひ代を,折つて裄け附ける。

(に)後幅の標を附けて,脇縫ひをなし,折りは前裾の方へ返し,脇の縫ひ込みを,正しく折つて,前後の裾へ裄け附けて,前幅の標を附ける。

(ほ)衽を出し,衽の標と前幅の標とを合せて縫ひ,折りは衽の方へ返し,縫ひ代を折つて裄け附ける。

(へ)衿を附け,折りは衿の方へ返し,衿幅の標をなして,裏を裄け附ける。

(と)腰布を,背に當る處を縫ひ合せ,折りは背と同じく返し,後幅と同寸に標をなし,脇縫ひを左右共になす,折りは前に返し,衽幅を同寸に標をなし,其標を摘んで,そら縫ひをなし,衿幅と同寸に,折りを附ける(裏表共縫ふ)。

(ち)裾の裾口を,腰布の裏表にて,三枚共縫ひ合せ,腰布幅を,出來上り

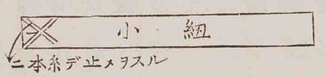
寸法に,折りを附けて置く。

(り)裳布を出し,標の通りに襞を取り,假りに躾けを掛けて,腰布一枚を縫ひ附け,折りは腰布の方へ附け,裏腰布にて絎け附ける。

(ぬ)袖を附け折りは,袖の方へ返し,肩當ての幅を,裙の肩幅及び前後の幅に合せて,袖附けの縫ひ目の,極端に絎け附ける。

(る)身八つ口の處へ,極細く,共布で,丈3寸位綻び止めに,笹縁を取る。

(を)幅4寸丈8寸の紐を,四本絎けて,此の紐を身八つ口止りから1寸下つて,上前は裏衿幅の端に,一つ附け,下前は表衿幅の端に一つ,脇縫ひの縫ひ目にも一つ,附ける,其附け方は,紐の一方,裁ち目の方を,端を折つて裙に縫ひ附け,次に紐の表に,二本糸で圖の樣に,綴ぢ附ける。

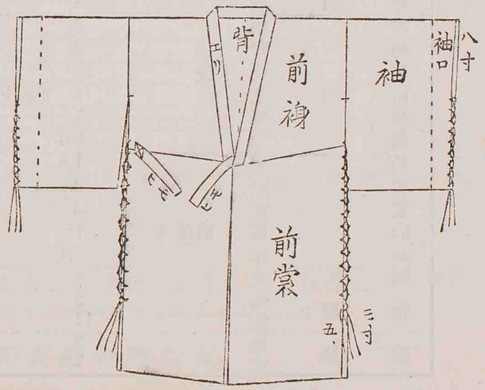


(わ)帶布を出し,丈の中央に厚紙を,丈10寸に絎け込み,又兩端に丈5寸づつ左右に絎け込みて,三つ衿の縫ひ目から,11寸下つた所に當て,厚紙の入れあるだけ,裙へ絎け附ける(兩端の厚紙の處は,二本糸で飾りの樣に,厚紙を綴ぢる,其綴ぢ方は,左右共端を綴ぢる)。

布衣眞

布衣眞は,僧侶の着する者である。

各部名稱　圖參照



用布の幅　95寸　13寸乃至15寸

用布の地質　綸子·毛繻子·木綿·絽紗等。

地色　黒色を主に用ひる。

仕立て上げ寸法

（寸單位）

名稱		寸法	
袖丈		14.5	
袖口明		8	
袖幅		9	
袖附		8	
袴丈	後	13	
前袴丈	前	14	（前下り 1,）
後幅		7	
前幅		5,5	
衿幅		1,5	
衿肩		2,2	
裳丈		14	
同幅	前後共	7	
紐幅		,4	
同丈		8	
後腰	幅	2	
	丈	14	
前腰	幅	2	
	丈	7,2	

各布名稱及び裁ち切り寸法

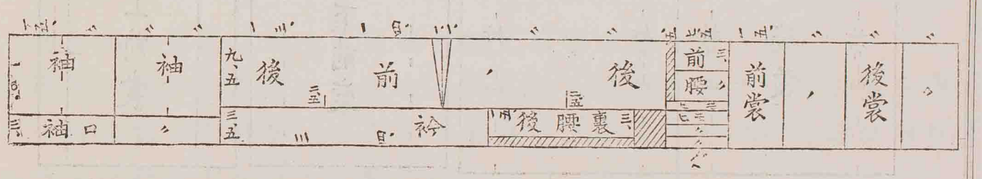
袖丈　15　4布　前腰布{丈 7.5 / 幅 3}　2布

裳布丈15　4布

後袴丈13　2布　紐布{丈 8 / 幅 1.6}　4布

前袴丈14　2布　衿丈 34 / 同幅 35 {1布　後腰布{丈 15 / 幅 2}　1布

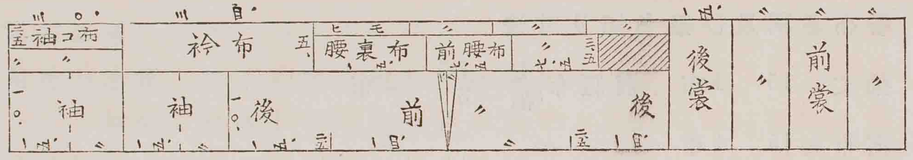
幅13寸の布を以て布衣眞の裁ち方



積り方公式　4袖丈＋4裳布丈＋4袴丈＋2前下り＋前腰裏丈＝總尺

同　算式　15×4＋15×4＋13×4＋1×2＋8＝18,2

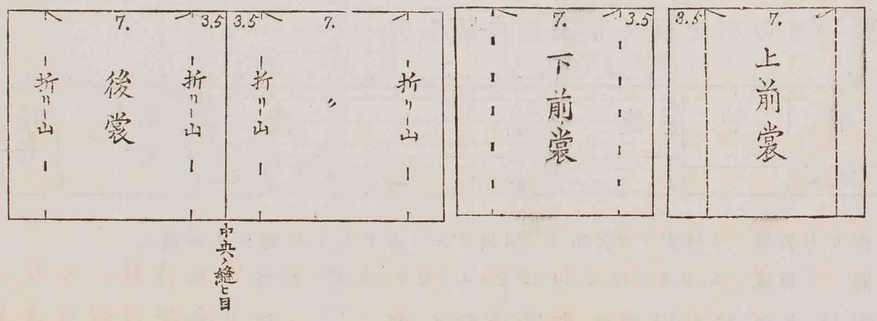
幅15寸の布を以て,布衣眞の裁ち方。



積り方公式　4袖丈＋4裳布丈＋4裙丈＋2前下り＝總尺

同　　算式　15×4＋15×4＋13×4＋1×2＝174

標附け方



縫ひ方

(い)表袖と袖口とを合せて縫ひ袖丈の標から標まで折りは表の方へ返し,袖下の縫ひ代を,1寸に表の方へ縫ひ目を出して,袖附けの方を,4寸乃至5寸縫ひ殘し,袖口の方は,袖口布の出來上り幅だけ殘して縫ひ,引き返して裏を出し,丈標をよく合せて,袖口の方は袖口布でくるみ,袖口布のある間は,四つ縫ひになして,袖下を縫ひ,袖口布の奥を淺く折つて,針目3寸位に絎け附け,表返して袖幅の標をする。

(ろ)裙を出し,背縫ひをする(後幅の標と,前幅の標を附ける)。

(は)前裙の幅の標を折つて,衿布を出し,裁ち目の方を,3寸の折りを附け,衿山標と背縫ひとを合せて,前身の方の止りまで,衿を縫ひ附け,折りは衿の方へ返し,衿幅の標を3寸と附ける。

(に)裳布を出し,二枚共左口を裾に,裙の背と同じ樣に,背縫ひをなし,折りは手前の方へ返し,幅の兩端を細く,三つ折りに絎け,裾口は5寸

を三つ折りにして,左右の端は單衣の裾先きの樣に,折つて裾絎けをする。

(ほ)左右の前の裳を,後と同じく,布幅の兩端を,細く三つ折り絎けになし,裾口も袖の裳と同じ樣にする。

(へ)後の裳布を出し,背縫ひ兩端の幅標を折り,其の折り目と折り目とを突合せ,其の合せ目が,背縫ひの中間になる樣に,兩襞にして,表から躾けを掛ける。

(と)前裳も同じ樣に,兩端の幅標を折つて,其折り山を,左右共三つ折り絎けにしたる處の,端と合せて,片襞として,躾けを掛ける。

(ち)後裾と後の裳とを,裏腰布丈の長い方で挾みて縫ひ,折りは胴の方へ返して置き,左右の袖附けの處で,後裾の標と腰布の幅を合せて裏腰布幅のある處まで縫ひ,折りは腰布の方へ返し,胴と裳とを合せた縫ひ目に綴ぢ附け,引き返して,腰布幅25寸にして,裾へ絎け附ける。

(り)前裾の55寸と,衿幅の1.5寸とを合せて,7寸となし,腰布で胴と裳とを挾みて縫ひ,折りは胴の方へ返し,衿幅の標を折つて,衿先きの處は,裳と腰布とを合せて縫ひ,衿でくるみ,衿幅15寸にして絎け附ける(裳は,衿幅の山の處まで附ける)。

(ぬ)袖の附け方は,普通の樣にする。

(る)袖幅及び裾の縫ひ込みは,縫ひ代を折つて絎ける。

(を)左右の脇の處は,胴接ぎの止りから,針目7寸乃至8寸にして,白太白糸で,裾口から5寸上つた處まで,兩千鳥に縢り,糸止めをして,糸の長さは3寸位にする(白太白糸は,二本で縢る)。

(わ)袖口下も,8寸にして,袂の角まで,裾の樣に縢る,糸の長さは3寸位にする。

(か)紐を幅出來上り·4寸,丈8寸四本絎ける。

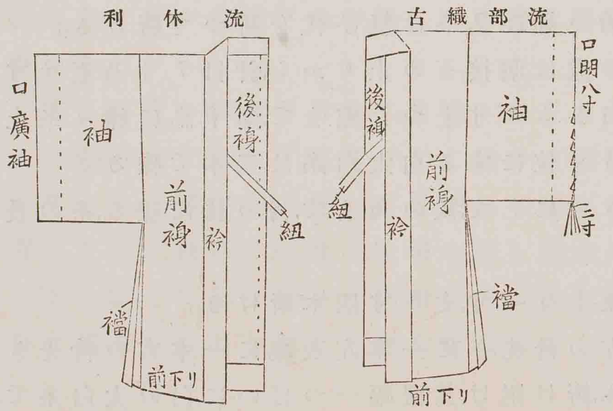
(よ)紐附けは,左の衿先きに一本,左表脇に一本,右の衿先きに一本,右の裏脇に一本,絎け附け,其紐幅一つばいに,白の太白糸で,裏表に同じ

様に,二本糸で飾り,糸の裏表に針目を同じ様に出すのである(左脇だけは,表に糸を出さぬ様に附ける)。

た)仕上げをなす。

十徳

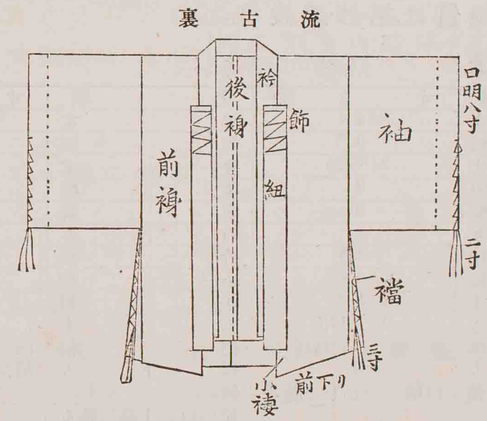
十徳は,狩衣を略したもので,昔は醫師等の着したもので,徳川時代



から,袖は廣袖にして,衿を羽織の様に折り返し,紐は共布を附けて,醫師·茶坊主等,夏冬共に用ひる様になつたのである。

仕立て方に裕と單とある。

各部名稱　圖參照



用布の幅　並幅中幅大幅

用布の地質　裝束地で仕立てるのが,本意であるが,追々左の地質に變つてきたのである。

袷に仕立てる地質は,縮緬·黑八丈·黑七魚子·綸子·羽二重等。

單に仕立てる地質は,絽·紗·透綾等。

位立て上げ寸法

（寸單位）

名稱	寸法	名稱	寸法
袖丈	14	袖丈	14
袖幅	9	袖幅	9
身丈	24 −25	身丈	20
後幅	8	後幅	8
前幅	5	前幅	5
前下り	1	前下り	1
衿幅	1,5	衿幅	1,3
紐幅	8	小褄	3,5
同丈	8	紐幅	1,3
衩き	17−17,5	同丈	16
襠幅	半幅一つばい	襠幅	四つ割り一つばい
紐下り	8	紐下り	肩から3,8
袖口廣袖	口明　8として縢る	同	
		襠の山を千鳥に縢る	
		其糸を5長く裁ち切る	

各布の名稱及び裁ち切り寸法

袖丈14.5　4布　後褄丈25　2布 / 前褄丈26　2布 ｝此の布は續けて取る

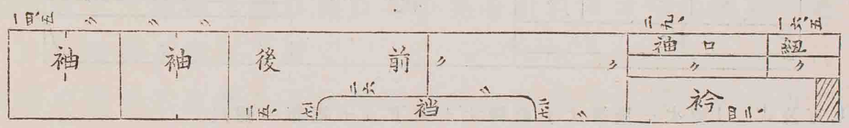
衿布半幅421布　袖口布四つ割り292布

紐四つ割り　16.52布(裏古流の時)

襠半幅又は四つ割りのもの ｛四つ割りの時は4布(裏古流の時) / 半幅の時は　2布

紐布｛幅2 / 丈8　2布

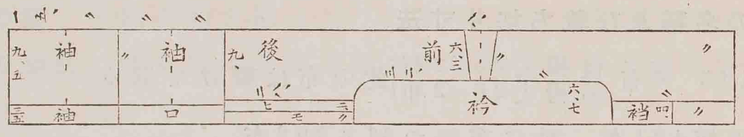
並幅の布を以て,十德の裁ち方



積り方公式　4袖丈＋4褄丈＋2前下り＋袖口布＋紐布＝總尺

同　　算式　14.5×4＋25×4＋1×2＋29＋16.5＝205.5

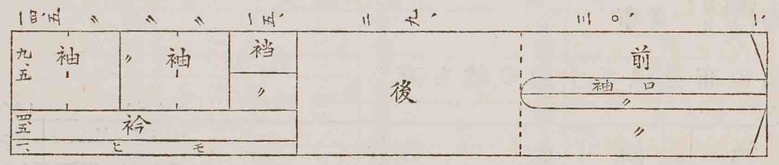
幅13寸の布を以て十德の裁ち方



積り方公式　4袖丈＋4裾丈＋2前下＝總尺

同　　算式　15×4＋28×4＋4×2＝180

幅15寸の布を以て十徳の裁ち方。



積り方公式　4袖丈＋後裾丈＋前裾丈＋前下り＋襠布＝總尺

同　　算式　14.5×4＋29＋30＋1＋15＝133

利休流

裾は,單羽織の樣にして,襠は半幅を,裾口から眞直に縫ひ附け,其襠

に襞を取り,衿は袢纏の樣に仕立て,袖は廣袖にする。

同縫ひ方

(い)袖口布を向うに,袖を手前にし,袖口布を少し引き加減に,縫ひ合せ,表袖の方へ折り返し,前袖にて後袖を挾みて,袖口布の奥の方は,幅2寸乃至3寸にして,裏へ折り返して,袖口布のある所まで,袖下を四つ縫ひにし,表袖の表を出して,袖下を1寸縫ひ代にして,袖口幅の縫ひ止りから奥を縫ふ(袖附けの處では,裁ち目から5寸か6寸の間,縫ひ殘して,斜に裏の方へ折り出して置く)。

(ろ)裏返して,標通り縫ひ,袖口布の奥を,針目3寸位に,表袖に絎け附け,袖幅標を附けて置く。

(は)裾の背を二度縫ひ,又は單羽織の上仕立ての樣に絎け附ける。

(に)襠の上部を,三つ折りにして絎け,袖附けの標から下に,後裾の脇と襠とを揃へて,縫ひ合せ,裾の方へ折りを附け,前の脇に襠を縫ひ附ける(前裾の裾口は,斜になるから,折り込みの所は,釣れない

様に折り出して縫ふ。

(ほ)裾口を三つ折りにして,針目3寸位に絎け附けて,襠の襞取りをする。

(へ)襠幅の眞中を山として,表から折り,其の折り目と前後の襠を縫ひ附けた縫ひ目と,都合三枚合せて,表から一束に躾けを掛け,裏の方は,襠の折り山が,二か所出來るから,よく折りを附ける。

(と)襠の上部を止め,褄で袖を挾みて,袖附けを止め,此の時襠の上部は,袖附けを止める糸を,掛けない様にする。

(ち)褄を·1寸の折り附けにして,袖を附け,袖幅に縫ひ込みの少なき時は,袖下の縫ひ込みだけに綴ぢ附ける。

(り)褄の脇を,縫ひ込みの端を折つて,褄に絎け附ける。

(ぬ)紐幅8寸出來上りにして絎ける。

(る)褄の肩山から8寸下つて,紐の絎け目は下に向けて,褄の裏に綴ぢ絎け,衿丈の中央と,背縫ひと合せて,袢纏の衿を附けると同じ

く,褄に縫ひ附け,衿先きは·1寸中を縫ひ,引き返して,衿幅1·5寸になる様に折りを附け,衿を絎け,着する時は,躾けは取り除く。

古織部流

褄及び襠は,利休流に同じである。

衿は,羽織の様に折り返し,袖は廣袖になし,袖口明きを定めて,殘りを太白糸で,千鳥に縢るか,又は丸袖にする事もある。

同縫ひ方

縫ひ方も,利久流と大差ないが,唯異なる所は,次の通りである。

(い)衿の附け方は,綿入羽織の様に,衿の眞中を,褄の背縫ひの裏に當て(紐の附け方は,前と同じ)縫ひ衿幅2寸に,折りを附け,衿先は·1寸中を縫ひ,衿を縫ひ附けた方に折りし綴ぢ附け,絎け代を折つて,正しく絎け,衿を折り返して,躾けを掛け,其掛け方は,羽織と同じにする。

(ろ)袖は,千鳥に縢る,其縢り方は,利休流の時の様に,廣袖に縫ひ上げ

た袖山から,袖口に明き8寸と標をなし,殘りの袖下まで,白太白糸一本で,袖口下から縢り初め,縢り終りも,袖下に糸の出る樣になし,其糸を袖下から2寸長く切る(袖下で束に結び置く)。

裏古流

裙は,單羽織の如くに,前裙の衿を附ける所は,裾口から小褄を附け,襠は半幅を,又眞二つに切つて,前後脇に別々に縫ひ附け,衿は小褄を附けた所から,上に縫ひ附けて,袖及び襠に,千鳥の飾り縫ひをなして又紐を衿に附けた處にも,飾り縫ひをする。

同縫ひ方

(い)袖附けは前と同じである。

(ろ)裙の背を,二度縫ひにする。

(は)襠の上部を,三つ折りに,四枚別々に絎け,襠の兩端は,裁ち目なれば,一方を三つ折りにして,絎け殘したる裁ち目の方を,前後の脇の袖附けの標から下に,縫ひ附け,襠布は後裙に一枚,前裙に一枚

づゝ縫ひ附ける。

(に)襠布及び後裙の裾口を標通りに折つて,絎け附ける(襠布の裾口の兩端が,表から見えぬやうに,斜に曲げて絎ける)。

(ほ)前裙の衿を縫ひ附ける所で,小褄3.5寸の標から,裁ち目を幅三つ折りにする時に,前下が附けあるから,自然に衿の附く方で,前裙の折り込みが,斜に出るから,裾口を絎ける時,單衣の褄先きを,斜に角を立てゝ折ると,同じ樣に斜に折り,襠の脇の方は,後と同じに折つて絎け,前後の襠横の絎け目を合せて,眞中の山として前後の襠の縫ひ目と,都合三枚合せて,一束に躾けを掛ける。

(へ)袖の附け方は,前と同じである。

(と)衿を縫ひ附け,衿幅1.3寸の上りになる樣に,折りを附け,衿先きは.1寸内を縫ひ,衿を絎ける。

(ち)紐幅1.3寸出來上りになし,一端は縫ひ,一端は縫ひ殘して絎ける。

(り)肩山から3.8寸,又は4寸下つた所から,下に紐を下向きにして,紐

幅の眞中を,衿と裾との縫ひ目に當て,紐の絎け目を,衿の方へ,紐の幅の輪の處は,裾の方へ向く樣になし,紐の上から2,5寸位の間,裾に絎け附けて,紐の表から白太白糸で縢り,袖口下も古織流の樣に,千鳥の飾り縫ひをする。

(ぬ)襠の襞の處にも,裾口から3寸上つた處から,袖附け止りまで,凡そ針目1寸位にして,千鳥の縢り縫ひをなし,糸の長さは3寸位下げて置く,縢り縫ひは,前後の襠の絎け目の山だけに,糸を通し,前後の裾と襠を附けた縫ひ目には,糸を通さない樣にする。

備考 衿に仕立てる時は,袖裏胴裏襠裏の附くのみで,標附け方は,衿羽織の樣にする。

縫ひ方 衿羽織と同じであるが,衿を鐵砲附けにすることが,出來ないので,袖は普通衿の着物の樣に縫ひ,袖口は廣袖になし,裾の胴接ぎ及び前下りを縫ひ,背を四つ縫ひにする事,裾に襠を附ける,此の時襠の上部は,裏表共に縫ひ合せ置き,襠の

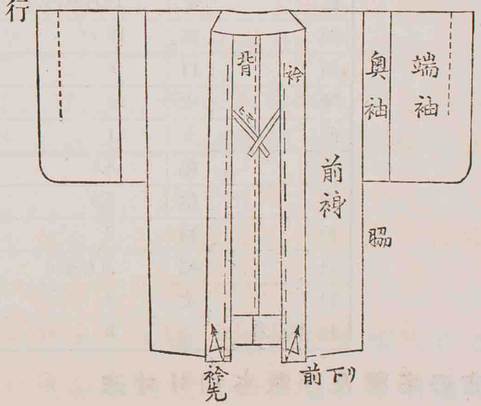
襞取りをする,袖を裏表共裾に縫ひ附け,衿を附ける,其附け方は單と同じである。

古織部流の時は,小褄を裏表共縫ひ合せ,又襠の横も裏表共縫ひ合せる,他は衿羽織と同じにする。

偏　綴

偏綴は,明治の始め頃に流行したものである。

各部名稱　圖參照



用布の幅　普幅　中幅

用布の地質　冬　黒縮緬·黒七子·羽二重·八丈。

夏　絽·紗。

仕立て上げ寸法

（寸單位）

名稱	寸法	備考
袖丈	14乃至14.5	
袖幅	13	1布半
袖口	8	
褄丈	24	衿肩及び袖形は普
前下り	1	通の樣にする
後幅	8.5	
前幅	5.8	
衿幅	2	
紐幅	.4乃至.5	
紐丈	8	
紐附着から	8	

各布の名稱及び裁ち切り寸法

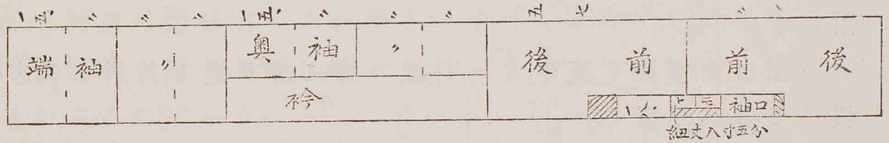
袖丈　15　4布　袖幅　1布半　後褄丈28　2布 / 前褄丈29　2布 } 四布

前下り　1　衿肩明き2.7　衿布　60·半幅1布

袖口布前褄の裁ち落しから幅2.7丈30.2布

紐布も同じ處から幅1.5丈8.5 2布

並幅の布を以て,偏繻の裁ち方。



積り方公式　8袖丈＋4褄丈＋2前下り＝總尺

同　算式　15×8＋28×4＋1×2＝23.4

標附け方

普通の男單羽織の樣にして,只異なる處は,袖幅に半幅入れると,襠を附けないのと,乳の代りに,共紐を附けるのみ,他は單羽織と同じ

である。

縫ひ方

(い)袖に奥の半袖を縫ひ附け,其の折りは口先袖の方へ返し,袖口は羽織の様に掛け,袖下を袋縫ひにし,袖口明き止りを止め,袖口下を縫ひ,袖形を拵へ,折りは前に返し,袖幅の標を附ける。

(ろ)背縫ひをなし,折りは衿肩を,右に持つて,手前に返し,後幅の標を附ける。

(は)前の裾口を,標通り裏の方へ,羽織の様に折り返し,其所を假りに躾けで押へて置く。

(に)幅·5寸丈け8寸の紐を絎けて,肩山から8寸下つた處へ,絎け目を下に向けて,返し針によく綴ち附ける。

(ほ)衿を鐵砲附けにして,衿先きを縫ひ,中に衿芯を入れて引き返し縫ひ目をよくこき出して,三つ衿を絎け,衿先き及び衿に羽織の様に躾けを掛ける。

(へ)左右の脇を縫ひ,折りは前に返し,縫ひ代を絎ける。

(と)袖を普通羽織の様に附け,折りは袖の方へ返し,縫ひ代を絎け附ける。

(ち)裾口を折り返し,正しく絎ける。

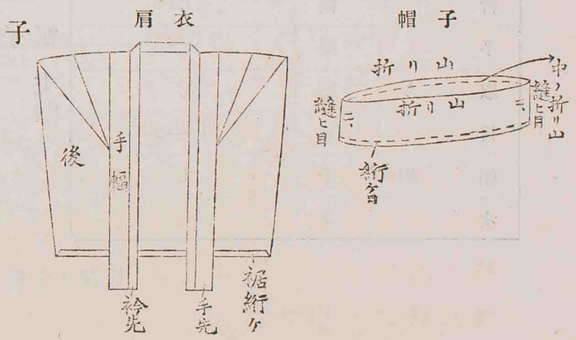
(り)火熨斗を掛け,正しく疊み置く。

門徒肩衣及び帽子

此の肩衣は,門徒宗の人が,佛寺に參拜の際,着すのである。

門徒肩衣を着した時は,帽子をかぶるのである。

各部名稱　圖參照



用布の幅　並幅

用布の地質　絹·紗·羽二重等。

仕立て上げ寸法　　**各布の名稱及び裁ち切り寸法**

（寸單位）

名稱	
後褄丈	15.5
前褄丈	17.5
衿幅	.5
手幅	1.2
取り締	5.
衿肩	1.8—2
幅帽子	2.
丈々	11.

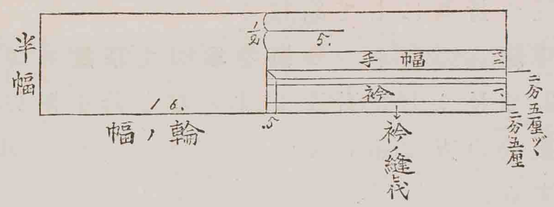
肩衣

後褄丈 16. 前褄丈 18.5 手幅及縫ひ代 1.5 衿幅 1. 衿の縫ひ代 ·25乃至.35

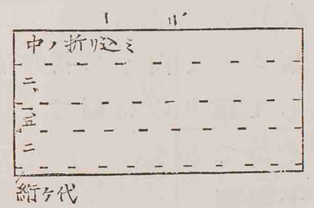
帽子

丈 12.
幅 並幅 } 1布

並幅の布を以て,門徒肩衣の裁ち方。



同帽子の裁ち方。



積り方公式　後褄丈＋前褄丈＋帽子＝總尺

同　　算式　16.＋18.5＋12.＝46.5